

まんが家直伝！ 達人の技で、まんががどんどん上手くなる！

Sho-Comi
まんが
アカデミア

達人に聞け

まんがが上手になりたい！ でも、作画にストーリーに演出…いきなり全てをアップデートするのは難しい。だったら、まずはひとつ自分の“武器”を手に入れよう！ そのためのテクニックを、その道の達人であるまんが家先生に直撃インタビュー。月イチだけのスペシャル連載です！！

第9回 コマ割りの達人

水瀬 藍先生

【青春ヘビーローテーション】



片想っていた様名ちゃんと恋人になった奈緒。様名くんの意外と嫉妬深い一面を知ったり、三角関係に突入したりしつつも、恋心は加速するばかり。そしてついにふたりにとって初めてのクリスマスが…！

その1 視覚効果が生きるコマの使い方を！！

慣れるまでは3～5P
くらいに抑えて

変形コマを多用すると読みづらくなる上、せっかく狙った「引っ掛け」の視覚効果も薄れてしまいます。「慣れないうちは、変形コマを入れるのは3～5Pがベスト。出会いや見せ場など重要な場面にのみ使いましょう。」

見せ場 物語の盛り上がりやアピール！



「視覚効果が生きる変形コマを入れる場所は？」

基本は、読みやすいスクエアなコマの連続がいいという水瀬先生。しかし、その中に変形コマを数か所入れることで、とある視覚効果を得られると言います。
「まんがって、ある程度は読み飛ばされるものだと思ってるので、フラットな流れの中に、変形コマという、引っ掛けを作り、目が止まるようにしています。止まらずとも、何かあったかと思わせることで状況の変化は印象付けられるので、物語やキャラへの解像度を上げられます。」



基本はスクエアなコマ割りで！



気持ちが動いた瞬間

めくり



めくりのコマ（次のページをめくらせるための左ページの右下のコマ）に小さな変形コマを入れて変化を印象付けることで、次のページに進ませる。

その3 枠線の傾きにも意味がある

コマの枠線を斜めに引く際も、達人は「全てがそうという訳ではないですが、場面によって傾きを変えています」とのこと。キャラ位置などでただ漫然と引いていた人は、もう一度見直してみよう。



左から右に落ちる→状況、場面の切り替え

「目線は自然と右から左に流れるので、左上がりのコマに読者は多少引っかかると思うんです。それを利用して、場面や視点の切り替えなどに使用しています。」



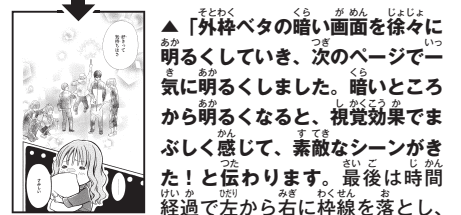
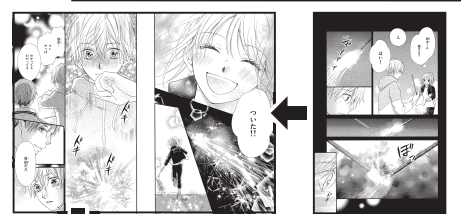
右から左に落ちる→キャラの気持ちの流れで読んで欲しいとき

「対してこちらはスムーズに視線が流れるので、例えばモノローグなどの気持ちの流れをそのまま続けて読んでほしい場合に使います。」

1ページに何コマが理想？

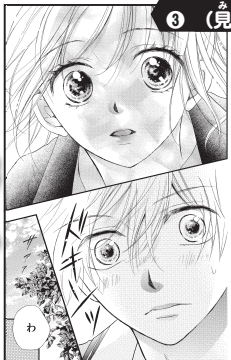
「『なみだうさぎ』の頃までは、状況をはしょってわかりにくくなるくらいなら、最大13コマまで入れていました。でも今はスマホで読むことも考えて、1ページにつき5～6コマにおさえています。その分コマ割りを工夫して、しっかり伝わるように努力しています」

一番のお気に入りシーン

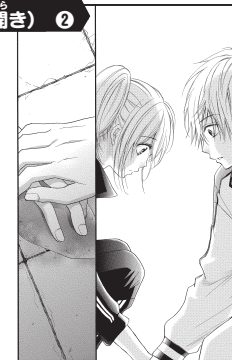


デフォルメで完全に場面と気持ちを切り替えました。これぞ達人という匠の技が全部盛り！（7巻）

「セリフのみのコマを作るときは、次に見てほしい場面があるときです」



「次のページをどういう気持ちで読んでほしいか考えてコマ割りをするのが基本」と言う水瀬先生。「大コマの見せ場の前はコマを小さくするなど、次のページのためにコマの多さや大きさを変えています」。



「次は奈緒への気持ちを思わず口にしてしまうシーン（6巻）。細かいコマ割りに見開きがスローモーションのように見え、律の心が奪われた瞬間を鮮やかに表現しています。さらに「時が止まったように見せるため、落ちたイモを追う律の動きをあえてめくりに入れています」という高度なテクニックも！

コマ割りがばっちり決まった回



▲「どれだけ考えてコマ割りしても、読者に伝わるかいつも不安」という先生がうまくいったというブル回（3巻）。「ドキドキから日常への切り替えの、当たり、というコマが、言葉の意味も相まってプラスイメージにできたのが良かったです」。

番外編

先生のお気に入りシーン

これまでに思い出に残っているコマ割りのシーンを、達人ご自身に選んでもらいました！

「全体的にドキドキしてもらえたんじゃないかなと思います！」

「素敵なシーンになりました」

第10回(11号)は演出の達人くまがい杏子先生お楽しみに!!!